



特集：他療法との併用

CSFプラクティスの特長のひとつは《他の治療法との併用が容易でありしかも抜群の相乗効果を発揮する》ことです。

PCA会長 宮野博隆

「他の先生方がCSFプラクティスを実際どのように活用しているのか興味がある」という声を多くの先生から頂戴しております。そこで今回は、CSFプラクティスの活用法についてお話ししたいと思います。

CSFプラクティスで治療するからといって、先生方が今まで何年もかけて培ってきた治療技術を捨ててしまう必要はありません。なぜなら、按摩・マッサージ・指圧・鍼・灸・カイロプラクティック・オステオパシーなど、すべての治療は「刺激療法」なので、CSFの吸収を促すことによってCSFの消極的増産につながりますし、症状をとる治療として一番大事なのは、患部にうっ滞しているCSFを吸収することにあるからです。

刺激療法においては、症状部位



【新中枢神経ブロック】

を上手に揉みほぐすことにより、（結果的にCSFが吸収されて）症状が軽減したり、強刺激ならではの爽快感・満足感を与えることで患者さんは足を運んでくれます。集客の鍵は揉みほぐしの上手さにあるといつてよいでしょう。

その刺激療法としての長所は残し、そこに上乘せしてCSFプラクティスを併用することで、より高いレベルでCSF循環や神経機能が活性化するため、刺激療法を用いた場合でも従来より高い治療効果を出せるのです。

すでに患者さんを多く抱えている、評判のいい先生であればあるほど、ある日突然テクニックを切り替えてしまうと、患者さんが混乱を来す恐れがあり、経営上大きなリスクを伴ってしまいます。現在お使いの治療法にプラスして、

ソフトブロックテクニックを使い、その治療効果をデモンストレーションで見せることから入っていくことをお勧めします。

ソフトブロックテクニックの効果を患者さんひとりひとりに認識してもらって少しずつ理解の浸透を図りながら、先生ご自身のスキルアップに伴って段階的にCSFプラクティスへシフトさせていくことが、患者さんを減らすことなく、短時間で治療効果をあげ、より多くの患者さんを治療できるように近道です。

◆ ◆ ◆ 【ソフトブロックの効果】

ソフトブロックテクニックは、研究に研究を重ねて開発されたテクニックであり、非常に大きな治療効果を生み出します。手で触れる治療法はすべて、触れた瞬間に患者さんの身体が防御反応を起こしてしまうため、深い治療は事実上不可能であると言わざるを得ません。ソフトブロックの最大の利点は、患者さんの身体が防御することなく、協調的に治ろうとする反応が起きることにあります。この比類ない効果を存分に生かすには、治療効果を先生ご自身が実感出来るような触診技術、検査技術を身につけ、患者さんに対するデモンストレーション技術を高めていくことが必須です。